

SHOW HEY シネマルーム

★★★

千年の恋～ひかる源氏物語

2001 (平成13) 年11月鑑賞

Data

監督：堀川とんこう

出演：吉永小百合／天海祐希／常盤

貴子

👁️👁️ みどころ

紫式部が「源氏物語」を書き始めてちょうど千年にあたる今年、東映の50周年記念大作。吉永小百合が紫式部となって進行役。そして何と光源氏には天海祐希が。どんなラブシーンか興味あり。しかし、ヒットは・・・？。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

<50周年記念作品>

「千年の恋～ひかる源氏物語」は、東映が14億円の製作費を投入した創立50周年記念の大作。

何でも、今年は紫式部が『源氏物語』を書き始めた年からちょうど千年目にあたるとのこと。

吉永小百合が紫式部なら、光源氏の理想の女性である紫の上に常盤貴子を、そして何と、光源氏にはあっと驚く元宝塚の大スター天海祐希を配した。

その他、清少納言にはなんと森光子が、そして、松田聖子が狂言回しのような役割で歌いながらストーリーを盛り上げている。

予告編を見て十分わかったのは、豪華なのは衣装と女優陣だということ。しかし豪華な衣装は私の私にはあまり興味がないし、そもそも十二単衣を着た女優では元々の美しさが台無しになってしまい、魅力が半減してしまっている。

常盤貴子他、光源氏に愛される若手女優陣の本来の美しさも、そのためか、あまり発揮できていない。吉永小百合は、やはり老けたなと思うものの、まだまだきれいだといえきれいだ、森光子はあまりにあまりだ・・・。

<天海祐希のひかる源氏>

天海祐希はさすがにきれいで華がある。何よりも身長が高いので一段と映えてうつる。

興味はラブ・シーン。それなりに各場面で各女優との絡みを美しく撮っているが、やはり不自然なところが目立つ。普通ベッドシーンでは、男のハダカは見せるが、天海祐希ではそうはいかないので、光源氏もチラチラばかり。じっくり見せると天海祐希のきれいな肌が目立ってしまい、おかしなことになるから、カメラワークを早くして、ワンシーンの回転がやたら早いので、どうしても、違和感がぬぐえない。

天海祐希の光源氏はメリットとデメリットの両方がある。

舞台挨拶で見た、髪が長く、赤いワンピースを着た、「女性の天海祐希」の方が、男の私からみればやはり魅力的。このキャスティングは、どちらかというデメリットの方が大きかったと思わざるをえない。

<華やかな女優陣だが・・・>

ストーリーは単純なようで複雑。そして複雑なようで単純。帝をめぐる権力争いに熱を上げる男たち。そしてそれに翻弄される後宮の女たち。この物語の進行を紫式部がつとめる一方、紫式部自身も、その物語の一翼を担っている。

つまり清少納言が教師役となる定子と紫式部が教師役となる彰子のどちらが早く帝の「お手つき」となり、子供を生むかというレースの物語だ。

他方、光源氏は帝の子でありながら、一種のひねくれ者、ハグレ者で、女遊びが大好きなプレイボーイ。自分の理想の女として、紫の上を育てあげながら、行くところ行くところ、女三昧の生活。その中で人生とは・・・と語るが、これではあんまり説得力がないのも当然。年老いた光源氏が朽ち果てていく最後の場面は、本当に残酷で寂しい感じがしてくる。

<外国人には魅力・・・>

この作品は、はっきり言ってそんなに魅力的な映画とは思えない。金をかけた大作ならすばらしいというものではないのである。

十二単衣や御所、後宮の生活ぶりがめずらしく、またトップ女優が男役をつとめるのがあやしげな魅力があると思えるのは、むしろ外国人が観た場合かもしれない。

テレビコマーシャルをはじめ、50周年記念大作の宣伝は派手だが、他に面白い映画がいっぱい封切られている12月、この映画は苦戦するのではないか・・・。

そんないらない心配をしている私である。

2001（平成13）年11月30日記